



**M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO**  
価格18万9000円

35mmフルサイズ判換算で24mmワイドから200mm望遠までカバーして、なお開放F値はF4通しという高スペックの高倍率ズームがこちらの12-100mm F4.0 IS PRO。ひと昔前の高倍率ズームにありがたかった眠い描写に甘いピントなんてものはこのレンズに関しては皆無。防塵防滴構造で高画質、クリアな描写力と高速高精度な「FAST AF」で、あらゆる場面で活躍するレンズです。



シャッター速度 ● 1/2000秒  
絞り ● f4  
撮影感度 ● ISO200  
ピクチャーモード ● i-Finish



**M.ZUIKO DIGITAL ED 300mm F4.0 IS PRO**  
価格39万9600円

オリンパスマイクロフォーサーズレンズラインナップでは最大望遠の35mm判換算で600mm相当の超望遠レンズ。これまで超望遠レンジの撮影ではレンズとボディの重さから三脚や一脚などを使用した機材の保持が必須でしたが、こちらのレンズとE-M1Xの組み合わせでは手持ち撮影が可能などの軽量システム。被写体をAIが判断するインテリジェント被写体認識AFや強力な手ぶれ補正と合わせ、これまでの超望遠撮影方法を覆すレンズとボディのコンビです。

シャッター速度 ● 1/2500秒  
絞り ● f4  
撮影感度 ● ISO800  
ピクチャーモード ● H(60コマ/秒)使用



オリンパス初の  
タテ位置一体型  
ボディのこの絶景。

この操作レイアウトにご注目。タテヨコいずれの持ち方でも、同様のボタン配置でボタンごとに1つの機能を与えることで、直感と習熟による素早いボタン操作が可能なレイアウト。またスティックレバー状のフォーカスセレクターも優れた操作感でした。



燃料片道涙で積んで、ゆくは……  
大丈夫、もう一個あります。

インテリジェント被写体認識AFのAIや、50メガの手持ちハイレゾショットなどの膨大なデータ処理のため、ダブル TruePic VIIIを搭載したE-M1Xは電力の消費量もなかなか。そこで大容量バッテリーを最初から2個搭載して、長時間の撮影に対応しているのです。なお、1個でもカメラは動きまわります。



待ちました  
この機能。

なんでこの機能を搭載してくれなかったんですかよ！と長らくお嘆きのOM-Dユーザーの皆さんお待ちせしました。USB充電です。タイプC端子です。これでうっかり出張ロケに充電器忘れて出かけてもどうにかになります。

# 電子写真機變愛

全天候 OK! 劣悪環境 バッチコイ!

高耐久性ボディ! オリンパス OM-D E-M1X

第二夜

**オ**リンパスといえば2016年の暮れに発売されたOM-D E-M1 Mark IIが長らくフラッグシップの座についており、わたくしも愛用中の名機でございます。

このカメラ、昨年のファームウェアバージョン2.0によりさらに機能面が増強され、プロキャプチャーモードでの全押し前画像記録枚数を、最大35コマに大幅増加! というモデルチェンジしたようなアップグレードを果たしたのであります。ほかに、新アートフィルター「ブリーチバイパス」を追加したり、フィッシュアイ補正撮影機能やフリッカーの影響を抑える、細やかなシャッター速度調節「フリッカーキャン」を追加したりして「俺たちにはもうこれで充分だ」と思わせる、軽量高性能なミラーレスなのであります。おそらく、きっと次の世代を担うオリンパスのフラッグシップシリーズもこの路線で……と思っていたあたりの大間違いでありました。

今回リリースされた新型OM-D E-M1Xはまさかのタテ位置グリップ一体型ボディ。このボディのスペックや理念を理解する前に脊髄反射的に「おっきいです!」と思ってしまったのは、ボクだけじゃなかったはず。じっさい、発表会であたしのそばにいたおじさんも「デカイなあ……」なんてボソッと行ってましたもの、そうあれはたしか某カメラ雑誌の編集……いやヨソのヒトのことをとやかく言うのはヤメておきましょう。大きいといっても従来のOM-D E-M1 Mark IIにタテ位置グリップ付いて、ファインダーらへんのボリューム感がすこし増したり、各部の肉付きがむっちりグラマラスになった、と思えばこれはこれでいいもんです。それではボディ本体のみ約849gのOM-D E-M1Xの優れた機能を羅列しますと、まずは2037万画素 4/3 Live MOSセンサーは、新たなコーティングを採用したダストリダクションシステムSSWFによる、ゴミの付着率を1/10に低減。また12bitロスレスRAW出力での豊かな諧調と精細な描写。さらに5軸手ぶれ補正はシャッター速度にして約7.0段もの補正効果を発揮。M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO使用のレンズ・ボディ5軸シンクロ手ぶれ補正時には約7.5段の補正力。236万ドットの電子ファインダーと104万ドットのバリアングル液晶モニタ、オールクロス121点 オールクロス像面位相差AFはインテリジェント被写体認識AFにより、画面内の被写体をAI

が特定。追尾するアルゴリズムでなんだか近未来フォーカス。そしてそのへんまつわる面倒で複雑な演算は、ダブル TruePic VIIIを搭載。これにより、16枚連写を合成した50メガピクセルもの手持ちハイレゾショットが可能に。さらに自由度が増した深度合成機能に、ライブNDフィルターの内蔵、新たにGPSを搭載し、動画撮影面でもデジタルシネマ規格のC4K 24p/4K 30p FHD 120fpsでの記録を可能にしました。そして防水試験にのめりこみ、もはや防水カメラ寸前の防塵防滴構造を得て、たいていの事じゃ壊れませんこのボディ。操作性も8方向対応マルチセレクターを搭載して、心臓部のシャッターユニットは40万回の動作試験をクリア。フラッグシップというより不沈空母ですなこのカメラ。

で、この超耐環境性能をひさげオリンパスが提唱するのが「機動性」。たしかにボディはこれまでのマイクロフォーサーズマウントカメラにはないゴツさですが、マイクロフォーサーズマウントならではないのが、レンズシステムの軽量コンパクト性能。フルサイズフォーマットであればちょっとした天体望遠鏡のような600ミリF4クラスのサイズの望遠レンズで撮影していた世界が、E-M1Xならわずかに1270gのM.ZUIKO DIGITAL ED 300mm F4.0 IS PROで手に入れることができるのです。このレンズ、定価約40万円と高価ですが、比較対象として某国産フルサイズ600ミリF4レンズは質量約4000gで、定価ざっくり160マンエンです。こちらが良いレンズですよもちろん。ただ、機動性という面で比較すると、軽量で低価格なE-M1Xに軍配があがるのは仕方がないことです。そういう目的のマイクロフォーサーズ規格なので、フルサイズを責めてはいけません。またフルサイズ換算で24ミリから200ミリのレンジをカバーするM.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PROなどは、約560gの質量で防塵防滴レンズですが、これに該当するモノは……フルサイズフォーマットではありません。開放F値をF4とするなら、どうしても標準ズームと望遠ズームの2本レンズを用意せざる得ません。これだけでもかなりの機動性なのですが、このレンズとE-M1Xを組み合わせた場合の手ぶれ補正力ときたら、シャッター速度にして約7.5段分。シャッター速度にして「秒」単位での補正力なので三脚を必要とするケースがぐっと少なくなり、おそろしい機動性を発揮するのです。

いつでもどこでもどんなときでも、E-M1X。このカメラは止まりません!(注)  
(注・あくまでもカメラは大丈夫です。が、アナタが耐えられるかは果たして……)



写真と文 織本知之

## オリンパス OM-D E-M1X



4/3型 Live MOSセンサー  
高速画像処理エンジン TruePic VIII 2基搭載  
有効画素数約2037万画素  
5軸シンクロ手ぶれ補正搭載  
121点オールクロス像面位相差AF  
AF/AE追従連写約18コマ/秒  
ISO LOW, 200~25600  
ボディ幅約144.4×高さ146.8×奥行75.4mm  
本体質量約849g(本体のみ)  
ボディ オープン価格(実勢36万5000円前後)  
◎オリンパスカスタマーサポートセンター ☎0570-073-000